



編集後記

●25 生

飛翔第 85 号に引き続き、編集長を務めさせていただきました、小林です。今号は、新しく 26 が編集委員に加わり、新体制でのスタートとなりました。26 編集委員の新しいアイデアと、今回で 3 回目の編集となる 25 編集委員のスキルを合わせ、今までよりもさらにグレードアップ下飛翔になるよう、制作してまいりました。

今号で私は引退となりますが、今号で第 85 号となる飛翔という総科の伝統を引き継ぐことができ、大変うれしく思います。

最後になりますが、飛翔の編集に当たり、総科教職員の皆様にご尽力いただきましたことを、心から感謝いたします。ありがとうございました。

飛翔第 86 号編集長 小林 美月



今回は多くの 26 と共に活動することができて良かったです！食堂帰れま 10 や総科 40 周年の講演会など、普段やらない面白い企画にも交ぜていただきました。飛翔 86 号のインタビューや企画に協力して下さった方々、ありがとうございました。長いこと編集室に残って頑張っていた 26 のみんな、飛翔 86 号を形にするため忙しい中デザインや原稿のチェック・修正等行ってくれた 25 のみんな、ほんとありがとう！今回もアポ取りや印刷、様々なサポートをしてくださった総科事務の方々、ありがとうございました、1 年半お世話になりました。そして、全ての「飛翔」読者の方々、ご愛読ありがとうございます。

これからも「飛翔」をよろしく願いいたします。

副編集長 渡邊 恭平



今回の飛翔は 26 が中心となって取材から記事の編集を頑張ってもらい、25 は比較的楽に編集を楽しむことができたかなと思います。今回で 25 編集委員は引退ですが、編集の作業に 1 年半携わることができたのは、とてもいい経験になったと思います。

副編集長 上江洲 まどか



今回の飛翔作成にはあまり関わることはできなかったのですが、後輩が作っている姿を見て、去年自分たちも四苦八苦しながら作ったな…と懐かしく思いました。

文章を書いて本にする喜びを飛翔編集で感じることができて本当によかったです。これからも飛翔を読んでいきたいと思います！

大塚 侑奈

時間がたつのは早いなあと思う今日この頃です。小さい目標をたてて努力したり、計画をたてて日々有意義に過ごしたりしたいと思います。大学生になって自由になった分今一度見直そうと思います。

今回の飛翔は、新しく面白い企画や記事があつたりするので、ぜひ多くの人に読んでいただけると幸いです。

藤尾 春菜



今年は新しく 26 も加わっての活動でした。26 が取材や記事づくりを中心にを行い、25 は今までの仕事の説明や全体の編集を担当しました。2学年で 協力していい冊子ができたと思います。一年半という短い間でしたが貴重な経験を積むことができました。ありがとうございました。

星原 有里



今回は初めて 26 生に記事の取材を任せたので、その分楽でしたが少し物足りない気持ちでした。やはり飛翔の醍醐味は取材にあると思います。26 生も取材をするのは次で最後だから、次号も頑張っしてほしいと思います。抜ける人もいるかもしれませんが、26 生だけで飛翔を作る最後のチャンスなのでできれば多くの人に居残っしてほしいです。私たち 25 生は今回で卒業ですが、名残惜しい気持ちです。飛翔では先生や OG の方などにインタビューするなど、色々と貴重な体験ができました。ありがとうございました。

丸本 千枝



この第 86 号が、25 にとっては最後の飛翔となりました。飛翔に一年以上携わり、たくさんのことを学びながら、一つのものを作り上げる楽しさや大変さも知ることができました。取材を快く引き受けてくださった方々はもちろん、一緒に頑張ってきた飛翔編集委員にも感謝します。これからは 26 が自分たちの色を大切にして、26 らしさの溢れる飛翔を作っしてほしいです。飛翔編集委員になって良かったです。本当にありがとうございました。

三山 まりこ

●26 生

新しいことをしたい、この理由だけで参加した飛翔編集員。自分の視野がぐんと広がったような気がします。取材や原稿作成など、全てが初めてで大変なこともたくさんありましたが、楽しかったです。インタビューではためになるようなお話ばかりで、将来について考えるきっかけにもなり、本当に貴重な経験だったと思います。しかし、ここで終わってはいけません。インタビューしたことを、どうしたら感動をそのままに読者に伝えられるのか、これには一番悩まされました。文章で伝えることの難しさを実感しました。たくさんの人に読んでいただけたら嬉しいし、できれば感想も聞きたいです。

網野 瑞貴



今回、初めて飛翔の編集に携わりました。私は研究室紹介と OG 紹介でインタビューに行ったのですが、インタビューを通して、先生や先輩の思いや、学生時代の話、生徒・後輩に贈るメッセージなどを生で聞いたことは大きかったな、と思います。ページには収まりきれなかった部分もたくさんあります。そういうこともひっくるめて、先生や OG の方と向き合ってお話をしたことからは感じるが多かったし、本当にいい経験でした。

いろんな人の思いが詰まった「飛翔」なので、たくさんの人が読んで、楽しんでくれたらうれしいです。

石原 佳奈



二つのインタビューは難しかったけれど本当に楽しくて、新しい発見の連続でした。このような機会をもつことができたこと自体に、そして素敵なお話を聞かせてくださった青木先生と OB の山谷さんに、心から感謝しています。ありがとうございました。

井上 萌



編集室に収められている「飛翔」のバックナンバーの数を見て、その歴史の長さを感じました。今回、その最新号を編集するなかで、インタビューや特集記事で行った食堂企画のように、多くの貴重な体験をさせて頂き、本当に楽しかったです。お力添えをしてくださった先輩方、また、一緒に編集作業を行ったみなさん、ありがとうございました。

妹尾 心

今回の編集作業は、ただただ自分の作業の遅さを痛感するものでした。ただ、自分だけではどうにもならないこととか、キャパが足りない部分を補ってくれた仲間の存在にひたすら感謝するのみです。

宮里 洋志



研究室訪問やインタビューなど初めての経験ばかりで大変なこともありましたが、とても勉強になりました。締め切りを過ぎたりなかなか計画通りにいかなかったりして回りに迷惑もかけてしまいましたが無事に形になったことがとても嬉しいです。飛翔の編集を通じて同学年はもちろん先輩方や教授の方々ともコミュニケーションをとることができて自分のためになったと思います。ありがとうございました。

岡田 菜緒



これを書いているのは締め切り当日です(笑)すっかり遊びすぎてしまいこんなギリギリになってしまいました。思い返せばこの一セメは本当にギリギリばかりでした。主に単位についてですが…でも、飛翔に入り多くのことを経験することができステップアップすることができました。次号は飛翔で県外に行きたいなあ…では皆さん次号を楽しみにしててください！！

尾関 寛之



飛翔な日々でも書いたが、大学入学から今までの四ヶ月、非常に短く、非常に忙しかった。ゆかたまつりの誘導長としての仕事をしながら取材内容を決め、ゆかたまつり前日に OG 取材、テスト勉強をしながら編集と、なんだかんだ飛翔の仕事が付いて回る日々だった。しかしこの忙しさこそ大学生らしさなのか、と考えるとこの忙しささえ愛おしい。

甲斐 匠



連絡がうまくゆかず何度も痛い目に遭いました。編集委員の皆さん迷惑おかけしました。しかし、いや、だからこそ隅々にまで浸透し学生間のコミュニケーションを媒介するラインの一党支配に楔を打ち込んでみたくなるものです…おっと、誰か来た。

柴山 真一

初めての飛翔の制作は難しく感じることもありましたが非常に良い経験ができました。インタビューでは、相手の話を聞くことの大切さやコミュニケーションのとり方など、常識的なことではありますが改めて学び直しました。先輩方にご迷惑をかけてしまい反省点も多々あるので、今回学んだ多くのことを次の制作に活かしたいです。 関 よしの



この度教授や先輩方へのインタビューと、飛翔レビューを担当しました。未熟ではありますが、とにかく楽しくお仕事させていただきました！これからも沢山の皆さまに、貴重なお話をお届けしていけたらと思います。ご協力して下さいました方々、そして飛翔の先輩方、ありがとうございました！ 竹内 音寧



社会に出て役に立つスキルはたくさんあります。英語がペラペラだったり、接客対応になれていたり、あるいは専門的な知識が豊富だったり。パソコンを使いこなすことだって重要なスキルのひとつだと思います。文章を書くことから、プレゼンテーションをきれいに見せたり、内容を分かりやすく伝えるための図を作ったりすることまで、パソコンを使いこなせればさまざまなことができます。飛翔の編集に携わることで、そのようなスキルを身につけ、実際に活かせる場を持てたのは非常に大きかったです。確かに期限通りに原稿を仕上げたり、要求に応じられるように資料を作成したりすることは大変でしたが、とてもいい経験ができました。 田岡 大樹



編集委員なるものをしたのは今回が初めてでした。苦勞することが多いけれど良い経験になると思い立候補しました。しかし、実際に他の編集委員と打ち合わせや取材をしていると楽しいことがたくさんあることに気づきました。飛翔を通して総科を知ることが出来て良かったです。 永野 明宏



僕は、教ゼミ班の中に飛翔編集員に立候補する人がいなかったため、しぶしぶ立候補しました。しかし、いざ編集員として活動してみると、メンバーと計画を立てて、取材に行き、文字起こしをして…という作業は初めてで、楽しくて、とてもいい経験になりました。飛翔編集員になって良かったです。 村田 章博

私は飛翔のような広報誌を作成したことは今までありませんでした。今回初めてこのような広報誌を作成する中で最も印象に残ったことは、先輩へのインタビューでした。あらかじめ質問を考えておいたり、インタビューの内容のテープ起こしをしたりとすべてが私にとって初めてのことで、夜遅くまで編集室に残って作業をしたりと大変でした。しかし、インタビューすることで先輩と知り合うことができたり、文章を書いたりすることはとても楽しかったです。作業をする中でうまくいったものもありましたが、締切りギリギリになってしまうものもありました。そのようなことがないよう、次の号ではもっと計画的に行っていきたいと思いました。頑張ります！

前田 絵礼奈



【広報・出版委員会飛翔編集委員】

86号には、「総科40周年記念式典講演会」の記事があり、いつもとはやや色合いの違う号となりました。総科にはいろいろな卒業生がいるのだと、改めて実感しました。編集委員の皆さんは慣れない(あるいは初めての)ことばかりで大変だったと思いますが、楽しんで作業を進めてくれました。「総科は総科の学生がつくる！」という意気込みで87号に取り組んでほしいと思います。

和田 正信

新しい飛翔を受け取りました。紙面を受け取るその場面、ページを繰るときの気分の高揚。そういうメディアの記憶を当たり前のようにして、総合科学部の一端を40年間支えてきたのだと強く感じました。編集に携わったみなさん、おつかれさまでした。メディアの作り手としての経験を、これからも楽しんでください。

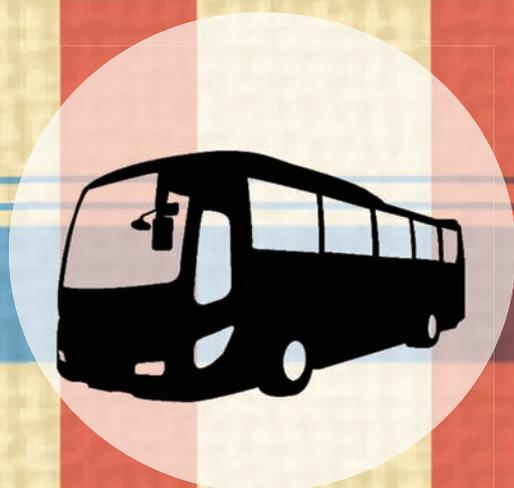
匹田 篤

【学生支援グループ担当】

毎号、飛翔編集委員のみなさんのカラーが伝わってくる仕上がりになっています。86号はさわやかさとともにチェックの表紙からは秋の気配が感じられます。巻頭言、研究室訪問、講演と興味深く読ませていただきました。総合科学部の教養を作り上げている貴重なお話が若い皆さんにはこの上ない指針となることと期待しています。

先日の大雨で広島地区でも大災害がありました。亡くなられた方、行方不明の方々を思うと胸が痛みます。一時でも早い復旧をお祈りしています。

木田 恵子



総合科学部報『飛翔』

2014年10月発行 通巻86号

広島大学 総合科学研究科・総合科学部

広報出版委員会

〒739-8521 東広島市鏡山1-7-1

TEL 082-424-6319